

シンポジウム

女性歯科医師がより輝く未来へ

女性の多様な働き方が求められている中、就業者のみならず雇用者にとって、国の出産・育児・介護休業や復職に関わる各種保険・制度等がどのようなになっているかを知ることは大切なことです。

また、開業、大学、行政と様々なフィールドで活躍している女性歯科医師に、それぞれの立場から、女性歯科医師が歯科医療、公衆衛生を含めた社会活動においてより輝くために期待されることや、どのようにして女性ならではの問題に向き合ってきたのか、就業先の支援制度の実際などについて、生の声を聞く絶好の機会です。

今後のライフステージでの対応や、ロールモデルの形成、進路の参考にするために、是非ご参加ください。

平成29年11月3日(金・祝) 13:00~16:00
(受付開始12:30)

申込締切

10月23日(月)
事前申込制

会場 歯科医師会館1階大会議室

参加費 無料

第1部 基調講演・講演 / 13:05~14:50

基調講演：テーマ

女性の活躍加速のために
～女性が能力を発揮できる環境の整備～



前厚生労働副大臣
古屋 範子氏

歯科医療職に限らず、広く一般の就業者、未就業者、雇用者に対し、出産・育児・介護休業や復職に関わる国の各種保険・制度等をご説明します。

講演：テーマ

私の日々の活動
～キャリア形成・向上に向けて～



滋賀県開業歯科医師
上原 美華氏

開業または歯科医師会、大学、行政といった様々なフィールドで活躍している女性歯科医師がそれぞれの立場から、日々の活動を紹介するとともに、どのようにして女性ならではの問題に向き合ってきたのかを、就業先における支援制度等を交えてお話しします。



東京医科歯科大学歯学部附属病院
歯科総合診療部助教
則武 加奈子氏



東京都福祉保健局
東京都南多摩保健所 歯科保健担当課長
白井 淳子氏

第2部 パネルディスカッション / 15:10~16:00

テーマ 女性歯科医師がより輝く未来へ

→パネリスト→

- 上原 美華氏 滋賀県開業歯科医師
- 則武 加奈子氏 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部助教
- 白井 淳子氏 東京都福祉保健局 東京都南多摩保健所歯科保健担当課長

→コーディネーター→

- 有松 美紀子氏 日本歯科医師会理事

開業、歯科医師会、大学、行政のそれぞれの立場から、その立場を目指した理由、歯科医療職の魅力、女性歯科医師が歯科医療、公衆衛生を含めた社会活動においてより輝くために期待されることや、課題、課題解決策、今後の歯科界の展望などについてディスカッションを行います。

日歯のイベントでは初めて託児所を設置



シンポジウム「女性歯科医師がより輝く未来へ」を開催



講演する古屋範子元厚生労働副大臣

シンポジウム「女性歯科医師がより輝く未来へ」(主催:内閣府、男女共同参画推進連携会議、日歯、後援:厚生省)が11月3日(金・祝)、歯科医師会館会議室で開催された。古屋範子・元厚生労働大臣が出席・育児・介護休業や復職に関わる国の各種保険・制度等について基調講演を行った他、開業、大学、行政のフィールドで活躍する女性歯科医師3名がそれぞれの立場で講演した。パネルディスカッションでは、歯科医療職の魅力などについて語り合った。

日歯は現在、歯科界のさらなる活性化に向けて、女性歯科医師のキャリアパスの形成及び向上や、多様な働き方を可能にするための環境整備などの支援事業に鋭意取り組んでいる。

今回、同事業が内閣府がテーマ例として示す「男女が共に仕事と子育て等を両立できる環境の整備」「起業等の女性のライフステージに対応した活躍支援」に該当することを踏まえ、女性歯科医師が歯科医療、公衆衛生を含めた社会活動においてより輝くために期待されることや、その支援策を壁を検証することを目的に、国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業として本シンポジウムは開催された。

◆ ◆ ◆
シンポジウムは、主催者を代表して堀憲副会長が挨拶を行った後、「基調講演・講演」「パネルディスカッション」の二部構成で展開した。

堀会長は、これまでの国や日歯の男女共同参画に関する議論の歴史を振り返ると共に、会長就任以来の女性歯科医師支援の取り組みに触れ、外部有識者を交えての「女性歯科医師活躍検討ボード」で議論を重ねてまとめた「出産や育児、介護等で離職した女性歯科医師の復職支援」を中心とした課題の解決に向けて、具体的な施策に着手していることを報告。その後、今後歯科衛生士、歯科技士等の女性歯科医療職にも当てはまる部分が出てくると認識し、多角的に検討を進めること述べ、できることから実行していく姿勢を示した。

主催者挨拶

堀会長は、これまでの国や日歯の男女共同参画に関する議論の歴史を振り返ると共に、会長就任以来の女性歯科医師支援の取り組みに触れ、外部有識者を交えての「女性歯科医師活躍検討ボード」で議論を重ねてまとめた「出産や育児、介護等で離職した女性歯科医師の復職支援」を中心とした課題の解決に向けて、具体的な施策に着手していることを報告。その後、今後歯科衛生士、歯科技士等の女性歯科医療職にも当てはまる部分が出てくると認識し、多角的に検討を進めること述べ、できることから実行していく姿勢を示した。

また、女性の就業率は昨年66%と過去最高となる一方で、未だに第1子の出産を機に育児休業を取得せず退職する女性は約5割に上るとして、さらなる手立ての必要性を指摘。国の「働き方改革」を示しながら男女ともに育児や介護のバランスが調和する環境を推進していく姿勢を強調した。

また、説明の中で世界各国の男女平等の度合いを示した2017年版「ジェンダー・ギャップ指数」に触れ、日本は144カ国中14位で、政界においても女性の国会議員が少ないことなどを紹介した。

その上で、社会での能力発揮を希望する女性のため環境整備は国の活力につながるだけでなく、政治の重要なテーマであることから、女性の視点を生かして、きめ細かな施策を強力に推進してきたことを示した。

また、女性の就業率は昨年66%と過去最高となる一方で、未だに第1子の出産を機に育児休業を取得せず退職する女性は約5割に上るとして、さらなる手立ての必要性を指摘。国の「働き方改革」を示しながら男女ともに育児や介護のバランスが調和する環境を推進していく姿勢を強調した。

また、説明の中で世界各国の男女平等の度合いを示した2017年版「ジェンダー・ギャップ指数」に触れ、日本は144カ国中14位で、政界においても女性の国会議員が少ないことなどを紹介した。

その上で、社会での能力発揮を希望する女性のため環境整備は国の活力につながるだけでなく、政治の重要なテーマであることから、女性の視点を生かして、きめ細かな施策を強力に推進してきたことを示した。

基調講演・講演

堀会長は、これまでの国や日歯の男女共同参画に関する議論の歴史を振り返ると共に、会長就任以来の女性歯科医師支援の取り組みに触れ、外部有識者を交えての「女性歯科医師活躍検討ボード」で議論を重ねてまとめた「出産や育児、介護等で離職した女性歯科医師の復職支援」を中心とした課題の解決に向けて、具体的な施策に着手していることを報告。その後、今後歯科衛生士、歯科技士等の女性歯科医療職にも当てはまる部分が出てくると認識し、多角的に検討を進めること述べ、できることから実行していく姿勢を示した。

また、女性の就業率は昨年66%と過去最高となる一方で、未だに第1子の出産を機に育児休業を取得せず退職する女性は約5割に上るとして、さらなる手立ての必要性を指摘。国の「働き方改革」を示しながら男女ともに育児や介護のバランスが調和する環境を推進していく姿勢を強調した。

また、説明の中で世界各国の男女平等の度合いを示した2017年版「ジェンダー・ギャップ指数」に触れ、日本は144カ国中14位で、政界においても女性の国会議員が少ないことなどを紹介した。

その上で、社会での能力発揮を希望する女性のため環境整備は国の活力につながるだけでなく、政治の重要なテーマであることから、女性の視点を生かして、きめ細かな施策を強力に推進してきたことを示した。

また、女性の就業率は昨年66%と過去最高となる一方で、未だに第1子の出産を機に育児休業を取得せず退職する女性は約5割に上るとして、さらなる手立ての必要性を指摘。国の「働き方改革」を示しながら男女ともに育児や介護のバランスが調和する環境を推進していく姿勢を強調した。

基調講演・講演

堀会長は、これまでの国や日歯の男女共同参画に関する議論の歴史を振り返ると共に、会長就任以来の女性歯科医師支援の取り組みに触れ、外部有識者を交えての「女性歯科医師活躍検討ボード」で議論を重ねてまとめた「出産や育児、介護等で離職した女性歯科医師の復職支援」を中心とした課題の解決に向けて、具体的な施策に着手していることを報告。その後、今後歯科衛生士、歯科技士等の女性歯科医療職にも当てはまる部分が出てくると認識し、多角的に検討を進めること述べ、できることから実行していく姿勢を示した。



開業、大学、行政、歯科医師会のそれぞれの立場で語り合ったパネルディスカッション

介。その一方で、家庭では3歳になる女の子の子育てにも奮闘しており、大学業務と子育ての両立は、家族や職場の理解とサポートに加え、勤務先の大学が展開する支援事業などに支えられているなどと説明した。

また、同大学が展開する具体的な支援事業として、「男女共同参画支援室/保育支援室」「キャリアアカウンセリング」「学内保育園」「研究支援員配備事業」「派遣型病児保育事業」などを説明するとともに、同事業の効果として、女性研究者の比率が経年的に増加していることを示した。

管理職として医療連携の推進や医療安全、歯科保健などに従事している白井氏は、行政機関に勤務する歯科医師数が290人(平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査)と増加傾向にあることや、子育て等の支援制度が整備されていることを紹介するとともに、東京都の「公衆衛生歯科医師」の仕事内容を説明した。

また、「歯科以外の仕事や異動もあり、緊張は絶えない」としながらも、身近にロールモデルとなる女性歯科医師が多いたことが公衆衛生歯科医師としての成長につながったなどと説明。さらに、▽人間力▽コミュニケーション▽公務員及び組織の一員として求められる力▽専門性▽公衆衛生歯科医師には重要であると強調する点にも、人との出会いや職場の仲間や家族への感謝の気持ちが大切であると結んだ。

パネルディスカッション

テーマ:女性歯科医師がより輝く未来へ

有松美紀子理事のコーディネートの下、講演に登壇した3名をパネリストに、それぞれの立場から、その立場を指した理由や決断した時期、歯科医療職の魅力などについて議論を行った。

質疑応答では、大学歯学部への進学を希望する高校生から「歯科医師を目指す上で参考になった」「もっと同年代の若い人にも聞いてほしい」「(以上、女性)」などの声が寄せられた。歯科大学に通う学生からは「今後の道を決める参考にしたい」という声も上がった。

最後に、有松理事が「女性性の特徴と経験を生かし、きめ細かさや専門性をもって多種多様に働くことができるのが女性歯科医師」とした上で、「男性の力も借りながら女性歯科医師に係る諸課題の解決に取り組む、女性歯科医師がより輝いていくことで、歯科界の発展につながっていくと思う」と総括した。

また、「歯科以外の仕事や異動もあり、緊張は絶えない」としながらも、身近にロールモデルとなる女性歯科医師が多いたことが公衆衛生歯科医師としての成長につながったなどと説明。さらに、▽人間力▽コミュニケーション▽公務員及び組織の一員として求められる力▽専門性▽公衆衛生歯科医師には重要であると強調する点にも、人との出会いや職場の仲間や家族への感謝の気持ちが大切であると結んだ。

また、女性の就業率は昨年66%と過去最高となる一方で、未だに第1子の出産を機に育児休業を取得せず退職する女性は約5割に上るとして、さらなる手立ての必要性を指摘。国の「働き方改革」を示しながら男女ともに育児や介護のバランスが調和する環境を推進していく姿勢を強調した。

上原美華・滋賀県開業歯科医師

上原氏は、20年間の歯科医師としての経験を基に、子育てなど家庭と両立しながら歯科医師に限らず仕事を続けるコツを披露。▽将来の輝く自分をイメージする▽家族を始め頼れる人や公共サービス等の確保▽焦らず疲れた時は休む▽などが重要であると説いた。また、歯科医師という職業での日々の活動内容を紹

白井淳子・東京都福祉保健局東京都南多摩保健所 歯科保健担当課長

白井氏は、行政機関に勤務する歯科医師数が290人(平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査)と増加傾向にあることや、子育て等の支援制度が整備されていることを紹介するとともに、東京都の「公衆衛生歯科医師」の仕事内容を説明した。

有松美紀子理事のコーディネートの下、講演に登壇した3名をパネリストに、それぞれの立場から、その立場を指した理由や決断した時期、歯科医療職の魅力などについて議論を行った。

質疑応答では、大学歯学部への進学を希望する高校生から「歯科医師を目指す上で参考になった」「もっと同年代の若い人にも聞いてほしい」「(以上、女性)」などの声が寄せられた。歯科大学に通う学生からは「今後の道を決める参考にしたい」という声も上がった。